

曾我小の校訓『知・情・意・体』

本校の体育館の入り口のところに石碑があります。これは、創立百周年を記念して建てられたもので「知・情・意・体」という四文字が刻まれています。学習指導要領などには、子供たちの「生きる力」を育むにあたって「知(確かな学力)」「徳(豊かな心)」「体(健やかな体)」のバランスのよい発達を心がけるように示されていますが、本校では、この「徳」の部分をもさらに2つ(「情・意」)に分けて、校訓としています。



「どろんこ田」活動スタート!

本校の教育活動の大きな柱のひとつである稲作体験学習『どろんこ田プロジェクト』が、今年もいよいよ始まりました。

＝4月11日(土)＝

今年も「おやじの会」の方々にご協力いただき「水路切り」をしていたできました。この作業をすると「今年もいよいよ始まるぞ!」という気持ちになります。



昨年の収穫の後、半年間で水路は土で埋もれ、雑草に覆い隠されてしまっていたのですが、草刈りをしたりスコップで水路の土を掘り上げたりしていただ



いたおかげで、きれいに水が流れるようになりました。

「この日は都合が悪かったので、数日前に一人で作業をした」という方もおり、「おやじの会」の皆様の温かい想いをより一層強く感じました。子供たちのために、本当にありがとうございました。

曾我小の子供たちにとって貴重な体験ができる大切な教育活動の場『どろんこ田』。

稲作体験を通して子供たちがここでどんなことを学んで成長していくのか、今年もとても楽しみになりました。



一緒に作業をさせていただいた時間は、春のさわやかな風が、とても心地よく感じられた時間でした。

おやじの会のみなさま。今年も曾我っ子たちのために、ありがとうございました!



知

友だちから、地域から、世界から学ぼう。そして、みんなに伝えよう

…広く学び、深く考え、表現できる子

情

自分のことも、まわりの人や物も、大切にしよう

…自分のことも、まわりも大切にでき、命や自然を大切にできる子

意

自分をよりよく変えていこう

…主体的に行動し、客観的に自分を見つめられる子

体

じょうぶな体をつくろう

…健全な生活を心がけ、健康で、体を動かすことを楽しめる子

「情」は、特に「他者(相手)を思う気持ち」を養おうという視点。「意」は「自分をよりよくしようという意欲」を養おうという視点です。

新券で注目を浴びた渋沢栄一も、その著書『論語と算盤』の中で、「知(知恵)・情(情愛)・意(意志)の三つがバランスを保って均等に成長したものが、完全な常識であろうと考える」と述べています。

本校の児童にも、「自分もまわりの人も幸せになれるように、バランスよく考えられる人になってほしい」と願っています。

＝4月20日（月）＝

2校時に、1,2年生が「どろんこ田」に行って、れんげ摘みをしました。一週間ほど前に水路切りをした時には、まだ一部にしか咲いていなかったれんげですが、この日には「どろんこ田」一面に咲いていて、子供たちは暖かい春の陽ざしの中、思いっきりれんげ摘みを楽しみました。あまりにもたくさん咲いていたので、「れんげ摘み」ではなく「れんげの草刈り」のようになってしまっている子もいて、見ていて、とても微笑ましかったです。

3年生も理科の授業として合流し、春の生き物や植物の観察をして、観察カードに一生懸命スケッチしていました。

テントウムシやバッタを追いかけるたびに上がる歓声が、どろんこ田に響き渡っていました。



＝5月7日（木）＝

連休明け、1・2年生がどろんこ田で「どろんこ遊び」をしました。田植え前のこの時期には、田んぼの土をよくかき混ぜて、柔らかくしたり、空気を含ませたりする必要があります。1・2年生はどろんこ田の中を思いっきり駆け回り、土を柔らかくしてくれました。田植えの作業自体は高学年が行うのですが、低学年のうちから、この土の感触を体験して、徐々に慣れていってほしいところです。



＝5月1日（金）＝

理科室で4・5年生が稲の「種まき・苗床づくり」をしました。5年担任から説明を受けた後、4・5年生混合の班に分かれて、種まきをしました。昨年も経験している5年生は、今年は教えてあげる立場になって、興味津々の4年生と協力しながら楽しそうに活動していました。

本校は児童数が少ないので、関わり合う友達の数にも限りがあります。このような様々な活動を異学年と合同で行うことで「関わり合い方」「コミュニケーション」などを学べるような機会を積極的に作っています。

今年の発芽は、どんな感じになるのかな？ 楽しみです。



このような体験は、子供の一生の記憶に残るとても貴重な経験です。こういう活動を学習教材として取り入れることができるこの恵まれた曾我という土地「曾我の里」があることにまず感謝し、そして、こうした環境を整えてくださっている地域の方々にも感謝しつつ、この活動をこれからも大切に引き継いでいきたいと思います。